

東日本大震災から学ぶ！ 東北からのメッセージ

～市民と学生で築く地域力～

日時 2012 年11 月16 日(金) 9:45～17:30

会場 東北福祉大学国見キャンパス けやきホール

(仙台市青葉区国見1-8-1 ※会場には駐車場がありません。公共交通機関をご利用下さい。)

お問い合わせ

社会貢献学会

【本部】 〒981-8522宮城県仙台市青葉区国見1-8-1
TEL:022-207-1804 FAX:022-301-0606

東北福祉大学内



《午前の部》基調講演

9:45~11:30 開会・基調講演 (けやきホール)

玄田 有史 氏 東京大学社会科学研究所教授

11:30~12:30 昼食 / 社会貢献学会理事会 (中会議室 管理棟4F)

《午後の部》シンポジウム・研究発表

12:30~14:00 基調報告・パネルディスカッション (けやきホール)

基調報告: 小山 達也 氏 兵庫県企画県民部広報課課長補佐兼地域広報係長

パネリスト: 小野寺 五典 氏 衆議院議員・東北福祉大学客員教授

小山 達也 氏

齋藤 實 氏 社会貢献学会副会長

小山内 敬子 氏 元青森県ボランティア市民活動センター所長

馬場 雄大 氏 東北福祉大学3年

コーディネーター: 伊藤 信太郎 氏 東北福祉大学特任教授・大阪大学客員教授

14:00~17:30 成果発表

口頭発表 (641/652教室 6号館)

ポスター発表 (けやきホールロビー)

16:00~17:30 市民会員による報告 (641教室 6号館)

17:30~18:15 学会総会 (641教室 6号館)

18:15~18:30 閉会式 (641教室 6号館)

18:30~20:00 懇親会 (風土 学生食堂)

歓迎挨拶 萩野 浩基 氏 東北福祉大学学長

会長挨拶 渡辺 信英 氏 東北福祉大学学長補佐

基調講演

テーマ

希望学と地域の未来

玄田 有史（げんだ ゆうじ）氏
東京大学社会科学研究所教授



<プロフィール>

1964年島根県生まれ。東京大学経済学部卒。ハーバード大学やオックスフォード大学の客員研究員、学習院大学経済学部教授、東京大学社会科学研究所助教授などを経て2007年度より現職。専門は労働経済学。

『仕事のなかの曖昧な不安～揺れる若年の現在』（中央公論新社、2001年）でサントリー学芸賞及び日経・経済図書文化賞受賞。『ニートフリーターでもなく失業者でもなく』（共著、幻冬舎、2004年）などの著作・研究でニート問題の第一人者として知られる。また社会科学の視点から「希望」を解き明かすことを目指す『希望学』を提唱し2005年度から東京大学社会科学研究所「希望学プロジェクト」を開始。『希望学』（編著、中公新書ラクレ、2006年）などを発表。東日本大震災復興構想会議専門委員会委員もつとめた。2012年日本経済学会 石川賞受賞

基調報告

12:30～ 会場：けやきホール

テーマ

市民と学生による地域連携と支援体制の可能性を探る ～兵庫県の取り組みから～

小山 達也（こやま たつや）氏
兵庫県企画県民部広報課 課長補佐兼地域広報係長



<プロフィール>

内閣府（防災担当）、JICA 国際緊急援助隊事務局、兵庫県防災企画課等での勤務を通じ、地震防災対策特別措置法の改正、有珠山（北海道）や三宅島（東京都）の噴火災害、四川地震、ミャンマーの洪水、国連防災世界会議（兵庫会議）の誘致・開催、国内外の災害への支援等を担当し、現在、兵庫県広報課で県広報紙、広報TV番組、ラジオ番組を制作している。「災害対策は総合施策、様々な分野の人的ネットワークが命」との信念から、国際連合災害評価調整官（UNDAC）、厚労省日本災害派遣医療隊員（DMAT）としての活動から、被災地でのドロカキボランティアまで、様々な防災活動に貢献。危険物取扱主任や毒物劇物取扱責任者の免許も取得しており、今後は、被災地の第一線での活動に重点を置く予定。

コーディネーター

伊藤 信太郎（いとう しんたろう）氏 東北福祉大学特任教授、大阪大学客員教授



<プロフィール>

1953 年宮城県生れ、東北福祉大学特任教授、大阪大学客員教授（国際公共政策研究科）

1976 年（昭和 51 年）慶應義塾大学経済学部経済学科卒業。1978 年（昭和 53 年）慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻修士課程修了。1980 年（昭和 55 年）ハーバード大学大学院修士課程修了。2001 年（平成 13 年）宮城 4 区衆議院議員初当選、外務大臣政務官（2005 年から 2006 年）、外務副大臣（2008 年）を歴任。2009 年（平成 21 年）、人材派遣会社・パソナグループの特別顧問に就任、就職先が決まらない大学生らにビジネスマナーから専門知識を教授する『人材創造大学校』の「事務総長」を務める。

パネリスト

小野寺 五典（おのでら いつのり）氏 衆議院議員、東北福祉大学客員教授



<プロフィール>

1960 年生れ、衆議院議員、東北福祉大学客員教授。1983 年（昭和 58 年）東京水産大学水産学部海洋環境工学科卒業。大学卒業後に宮城県庁入り、水産資源の研究に携わるなど 5 年間勤務。1993 年（平成 5 年）に東京大学大学院法学政治学研究科修士課程を修了。その後は東北福祉大学専任講師を経て 1996 年には同助教授に就任。1997 年（平成 9 年）衆議院宮城 6 区で初当選、外務大臣政務官（2004 年から 2005 年）、外務副大臣（2007 年から 2008 年）を歴任。現在、衆議院沖縄及び北方問題に関する特別委員会委員長、外務委員会委員、東日本大震災復興特別委員会委員、自民党宮城県支部連合会会長。

パネリスト

小山 達也（こやま たつや）氏 兵庫県企画県民部広報課 課長補佐兼地域広報係長



パネリスト

齋藤 實（さいとう みのる）氏

社会貢献学会副会長

<プロフィール>

1951年福島県生れ、1969年東京都庁入り、衛生局係長、三宅支庁総務課長、総合防災部情報統括担当課長を歴任、新型インフルエンザ対策として、「対応マニュアル」や「都政のBCP（新型インフルエンザ編）」を策定するとともに、2009年4月発生した新型インフルエンザ（A／H1N1）の発生の際には、感染症対策本部や各種対策会議を適時・迅速に開催するなど、危機管理部門の実務責任者として活躍。東日本大震災時には、都災害対策本部の広報班の責任者として、プレス対応等を担当。さらに、区市町村や事業者団体等の講演も多数ある。2010年4月から危機管理勉強会齋藤塾塾長、2011年4月から社会貢献学会副会長。著書に「想定外を想定する危機管理」（2011年10月）等がある。



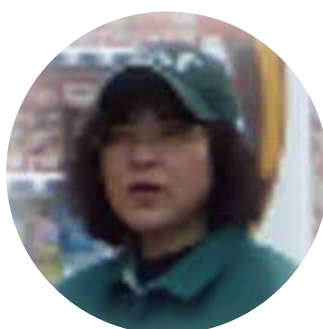
パネリスト

小山内 敬子（おさない けいこ）氏

元青森県ボランティア市民活動センター所長

<プロフィール>

1953年青森県生れ、社会福祉主事・手話通訳士・福祉用具専門相談員・上級障害者スポーツ指導員・災害ボランティアコーディネーター・災害ボランティア支援センター運営支援者・青森県防災士会理事・社会貢献学会会員。東日本大地震後は、県社協内に青森県救済ボランティアセンターを開設し、県防災ボランティア情報センターに派遣され、八戸市・三沢市に設置された災害ボランティアセンターとの連絡調整を担当した。平成23年度より、社会福祉法人すこやか福祉事業団の青森県長寿社会振興センターに移り、認知症の学習療法士として「高齢者の孤独死と見守りについて」住民による研究会を開催し、見守り活動の推進を図っている。



パネリスト

馬場 雄大（ばば たけひろ）氏

学生代表 東北福祉大学 3年

<プロフィール>

1991年生れ、東北福祉大学総合福祉学部 社会教育学科3年。副専攻の社会貢献活動支援士課程で、防災・減災・ボランティア、福祉、環境などの社会貢献分野を学んでいる。東日本大震災後は被災地に入りボランティア活動を行ったほか、震災の教訓を活かし自助・共助の面から防災について知識を深めようと防災士資格を取得、自分から防災について発信する活動にも積極的に取り組んでいる。さらに社会貢献学会の学生会員として東日本大震災被災地の避難所支援やイチゴハウスの復興支援なども手掛けた。



OS-1 被災地からの報告 司会：村上 正浩 会場：641 教室

1 東日本大震災後における町内会他助活動及び自主防災組織の災害時協力協定の現状
○菅原 康雄（仙台市福住町町内会）

2 東日本大震災 被災地からの報告「災害文化の伝承に必要なこと」
○高橋 英彦（東北福祉大学）

3 被災地における中長期支援の役割と効果
～「宮城県女川町仮設住宅（清水地区・新田地区）」の事例を中心として～
○石原 尚生（東北福祉大学）

OS-2 被災地支援活動 司会：木村 佐枝子 会場：641 教室

4 被災地の健康運動支援の取り組み
○齋藤 昌宏（東北福祉大学）

5 東日本大震災における大学教員と学生による医療ボランティア活動
○富澤 弥生（東北福祉大学）、菅原 尚美、小野木 弘志

6 宮城県石巻市雄勝町における震災支援活動報告
○高崎 百加（神戸学院大学）

7 東日本大震災における工学院大学の被災地支援の取り組み
写真修復ボランティア「あなたの思い出まもり隊プロジェクト」
○平本 達也（工学院大学）、村上 正浩、和久 里洋

OS-3 社会貢献、防災教育 司会：近藤 誠司 会場：652 教室

8 あなたは次の災害で生き残れますか？
○半田 亜季子（社会貢献学会理事）

9 大学におけるソーシャルキャピタルの意義
ー地域と共生する大学づくり全国縦断熟議を事例としてー
○木村 佐枝子（浜松大学）、前林 清和、江田 英里香

10 公私協力方式の特色を生かした社会貢献への取り組み
ゼミ学生による模擬会社で地域イノベーション創発
○中村 一真（四日市大学）、東村 篤

11 自主防災組織の活動を考える
-兵庫県三田市内の自主防災会と防災リーダーの会との連携から-
○安富 信（大阪読売サービス株式会社）

OS-4 被災地支援活動のあり方 司会：高橋 英彦 会場：652 教室

12 災害時を含めたペット共棲住環境の品質評価
○程原 恵多（工学院大学）、田村 雅紀、金巻 とも子

13 住空間における多像化壁紙のパターン知覚が印象評価に与える影響
パターン・イメージ原図を対象とした官能検査
○君島 新一（工学院大学）、田村 雅紀、大原 千佳子

14 安心して働き・学び・遊び・集うことのできる新都心・新宿を目指して
○村上 正浩（工学院大学）、久田 嘉章

15 「コンサマトリーな防災」と「インストゥルメンタルな防災」
～高知県四万十町興津地区におけるアクション・リサーチから～
○近藤 誠司（京都大学）、孫 英英、宮本 匠、矢守 克也

P-1 工科系大学の事業継続計画策定のための基礎的研究

東日本大震災時に行った各部署震災対応業務調査

○櫻井 翼（工学院大学）、稲垣 大輔、吉田 倬郎、
村上 正浩、宮村 正光、久保 智弘

P-2 工科系大学の事業継続計画策定のための基礎的研究

～被災時における業務の優先度調査～

○稲垣 大輔（工学院大学）、櫻井 翼、吉田 倬郎、
村上 正浩、宮村 正光、久保 智弘

P-3 新宿・新都心の防災資源に関する調査研究

○浅野 菜邦（工学院大学）、村上 正浩、平本 達也、稲垣 大輔

P-4 新宿駅周辺地域のエリア防災に関する研究

○牧野 夏葉（工学院大学）、村上 正浩、平本 達也

P-5 写真修復ボランティア「あなたの思い出まもり隊プロジェクト」

活動マニュアルの作成について

○和久 里洋（工学院大学）、村上 正浩、平本 達也

P-6 福祉仮設住宅におけるボランティア活動ー今後の課題

○佐藤 美希（東北福祉大学）、船渡 忠男

P-7 救命ボランティアサークル「FAST」

～一次救命の普及～

○瀧音 夏実（東北福祉大学）

P-8 東日本大震災における災害支援の取組み

- 東北福祉大学「減災・予防福祉演習」受講学生の活動を中心として -

○星 裕斗（東北福祉大学）、野村 圭、橘 良輔、
大野 卓也、菅野 大也、高橋 英彦、小抜 隆

P-9 災害支援につながる地域活動の有用性

○三浦 加奈（東北福祉大学）、坂元 恵

P-10 東日本大震災における仮設住宅支援活動記録

○奥山 理文（東北福祉大学）、星 裕斗、高橋 英彦

P-11 非常食（「サバ・メシ」）づくりを通じた防災教育の取組み

- 東北福祉大学「減災・予防福祉演習」における実践を中心として -

○小抜 隆（東北福祉大学）、高橋 英彦

